

## 効果の上がる国語の学習方法を考える

— 「テキスト」や「問題文」の「本文をよく読む」こと —

開倫塾

塾長 林 明夫

**Q** : 効果の上がる国語の学習方法とは何ですか。

**A** : (林明夫 : 以下省略) 学校や開倫塾のテキストの「本文をよく読む」ことです。国語の「試験」であれば、「問題文」の「本文をよく読む」ことです。「本文をよく読む」ことが国語の成績向上の秘訣です。

**Q** : エーッ、国語の試験ではまず「設問」を読み、「本文」はその「設問」の解答が書かれている箇所(かしよ)を中心に読めばよいのではないですか。

**A** : (1) よほど時間がない、緊急の場合には、そのような方法でよいかもしれませんね。

(2) ただし、まずはできるだけ時間をかけて、ていねいに「問題文」の「本文をよく読む」ことをお勧めします。

(3) 「問題文」の「本文をよく読み」、「内容を十分に理解」してから「設問」の解答を自分の力で考えることが大切です。「選択肢」のある問題は、「選択肢」を見ずに、まずは自分の力で「設問」に対する解答をよく考えることです。

(4) 自分の力で解答を考えてから、それに最も近い「選択肢」を選ぶ。これが国語の「試験」で高得点を取る秘訣です。

(5) すぐに「設問」や「選択肢」を見ないこと、「設問」や「選択肢」を見る前に、「本文をよく読む」こと、「本文を時間をかけてよく読み」、その内容をできるだけ正確に「理解」することが、国語の「試験」で満点や高得点を取るポイントです。

(6) 実は、「本文をよく読む」ことが大切なのは、「英語」の「中文問題」や「長文問題」でも、全く同じです。英語の「試験」でも、まずは「本文を時間をかけてよく読み」、その内容をできるだけ正確に「理解」する。それから、「設問」をよく読み、解答を自分の力で考える。「選択肢」のある問題では、「選択肢」を見ないで解答を、まずは、自分の力で考える。そして、解答に近いものを「選択肢」の中から選ぶ。これが英語の「試験」で満点や高得点を取る秘訣です。国語と全く同じです。

Q : 「試験」の受け方は、国語も英語も同じとは驚きました。ところで、国語の予習はどのように行えばよいのですか。

A : (1) 学校や開倫塾のテキストの「本文をよく読む」ことに尽(つ)きます。

(2) テキストの「本文をよく読み」、「内容を十分に理解」することに尽きます。

(3) 国語のテキストに掲載されている文章は、選び抜かれた素晴らしいものばかりですので、大きな声を出してゆっくりと読むことをお勧めします。声を出して読むことを「音読(おんどく)」と言います。まずは、スラスラとよく読めるようになるまで「音読」すること。もっと言えば、「音読練習」をしてスラスラとよく読めるようにすることをお勧めします。

(4) 「音読練習」をしてスラスラとよく読めるようになったら、「朗読(ろうどく)」することをお勧めします。

Q : 「音読」と「朗読」の違いは何ですか。

A : (1) 「音読」は声を出して読むこと、「朗読」は人に聞いて頂くものです。聞く人の立場に立ってわかるように読むことだと考えます。

(2) 語尾まで、一語一語、心を込めて、相手に作者の思いが伝わるように読む。これが「朗読」です。

(3) 東京の岩波ホールで、俳優の山本安江さんたちが木下順二作の「夕鶴」を「朗読」したのを聞いたことがあります。本当に感動しました。「朗読」は感動さえも生みます。

Q : 「音読」や「朗読」のほかに、予習としてやったほうがよいことは何ですか。

A : (1) テキスト本文の、「ノートへの全文書き写し」です。

(2) 書き写すときには、ノートは縦(たて)書きで使用。ノートの上半分に、一行か二行おきに、「楷書(かいしょ)」で、ていねいに書き写すことです。学校の教科書の「書体」を「楷書」と言います。ノートの下半分は、書き写さないこと、空けておくこと。

(3) 「現代文」は一行おきに、「古文」や「漢文」、「俳句」や「短歌」などは二行おきに、書き写しましょう。

(4) ノートに書き写した本文も、「音読」や「朗読」を試してみましょう。

Q : 「音読」や「朗読」、「ノートへのテキスト本文の書き写し」が終わったら、予習として何をすればよいのですか。

A : (1) 本文の中に意味のよくわからない語句があったら、「辞書」を用いてその意味を調べることです。

(2) 「辞書」で調べた「ことばの意味」は、その語句とともにノートの下半分には書き写すこと。そして、語句とその意味を「音読」することも大切です。

(3) 正確に書けるようになるまで、「書き取り練習」を行うことも大切です。

(4) 「ことばは力」です。意味がよくわからないことばがあったら、辞書を用いて意味を調べる。調べた内容をノートに書き写す。書き写した語句とその意味を「音読」や「書き取り」の練習をして、すべて正確に身に着ける。このようにして 1 日に 10 のことばを身に着ければ、1 か月で 300、1 年に 3650、3 年で 1 万以上のことばを身に着けることができます。1 日に 1 つでも、3 年間で 1000 のことばが身に着きます。是非挑戦を。身に着いていることばの数は成績向上に直結します。

Q : 最後に一言どうぞ

A : (1) 教科書に載っている文章はその作品の一部であることが多いので、図書館や書店で「原作」を探し出し、全文を読むことをお勧めします。

(2) その作者の他の作品をできるだけ多く読むこと。

(3) このときに図書館と書店がとても役に立ちます。

(4) 学校を卒業しても、教科書で一度親しんだ作者の作品は一生かけて読み続ける。1 回読んだだけではよくわからないことが多いので、気に入った作品は 5 回、6 回と繰り返し読むことを強くお勧めします。

(5) 教科書や試験問題の「本文をよく読む」ことは、「思慮深さ」(深くものごとを考える力、自らを振り返る力)を身に着けることにとても役に立ちます。是非やってみてくださいね。

— 2015 年 4 月 10 日記 —  
(宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授)